



ちょっとそこまで～お散歩日和(地域編)～



電子基準点

6月下旬、NHKの「ドキュメント72時間」で、練馬区田柄の吉田農園が放映されました。タイトルは「東京・練馬 野菜の自動販売機」です。



これは私たちにとっては見慣れた光景で、こうして取り立てて番組にするほどでもないと思っていましたが、他地区の人たちにとっては大変珍しいものだったようです。ちょっと意外でした。レタスを目当てにきた親子や日課のランニング帰りに立ち寄る男性などが次々に登場し、編集の上手さも加わって、なかなか面白い内容だったと思います。

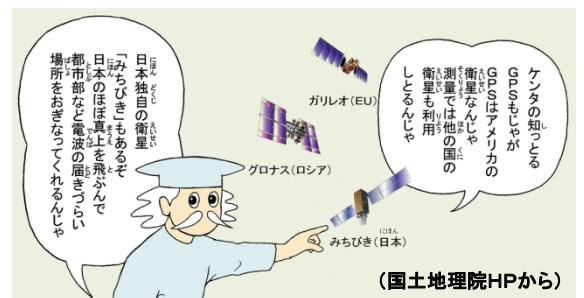
個人的なことですが、私の勤務先では、この農園の協力によって、サツマイモやキャベツ、大根の栽培や収穫作業を2～4年生が生活科や総合的な学習の時間に取り組むことができます。もちろん、地産地消の給食食材を得たり、ソラマメのさや外しやトウモロコシの皮むき体験ができたりと、貴重な体験の場を数多く提供してもらっています。

確かに練馬区は23区でも緑被率が26%で最も高く、公園数も680か所を越え、緑豊かな区という印象が強いのですが、それ以上に、こうした農地が隣接して数多く残っていることに目を向けるべきだし、もっと誇るべきだと思っています。

「東京の田舎」という表現があるとすれば、それは「住み易さ」を象徴する言葉として受け止めたいと思います。それに、そうした環境が子供たちの情操に良好な影響を及ぼすことは間違いありません。

さて、本題に入ります。

たまたま最近放映されたことから吉田農園から話を始めてしまいましたが、この自動販売機設置場所の目と鼻の先に「練馬区しやらのき児童遊園」があります。当団地からは、練馬高校の東隣りと言った方が分かりやすいでしょう。地域の子供たちはこの公園を「えんぴつ公園」と称しています。その理由は、ここに電子基準点が建っていて、その形状が見事に鉛筆の姿そのものだからです。



そもそも電子基準点ですが、国土地理院によれば、

「全国約1,300ヶ所に設置されたGNSS連続観測点です。外観は高さ5mのステンレス製ピラーで、上部にGNSS衛星からの電波を受信するアンテナ、内部には受信機と通信用機器等が格納されています。基礎部には、電子基準点付属標と呼ばれる金属標が埋設あり、トータルステーション等を用いる測量にも利用できるようになっています。」

となっています。トータルステーションとは、土木・建設工事を進める時に使用する、角度と距離を測定する測量機器のことです。



全国約1,300ヶ所という数値からアメダスを連想された方も多いでしょうが、三角点についても練馬区に設置されていることは知っていても良い情報だと思います。

話は少しずれますが、この「しゃらのき児童遊園」の正面には今春まで立派なナツツバキの巨木が立っていました。これほど見事なナツツバキをこれまで見たことがありません。しかし、残念ながら立ち枯れて若木に植え替えられていました。残念です。「しゃらのき」とはナツツバキのことです。「祇園精舎の鐘の声」で謡われる「沙羅双樹の木」のことです。

当団地では、5号棟の東側の緑地中央に植栽されています。この木も当初はみすぼらしかったのに、今では随分逞しく育っていると同時に、花の数も見違えるほどに増えたと思います。



(終)